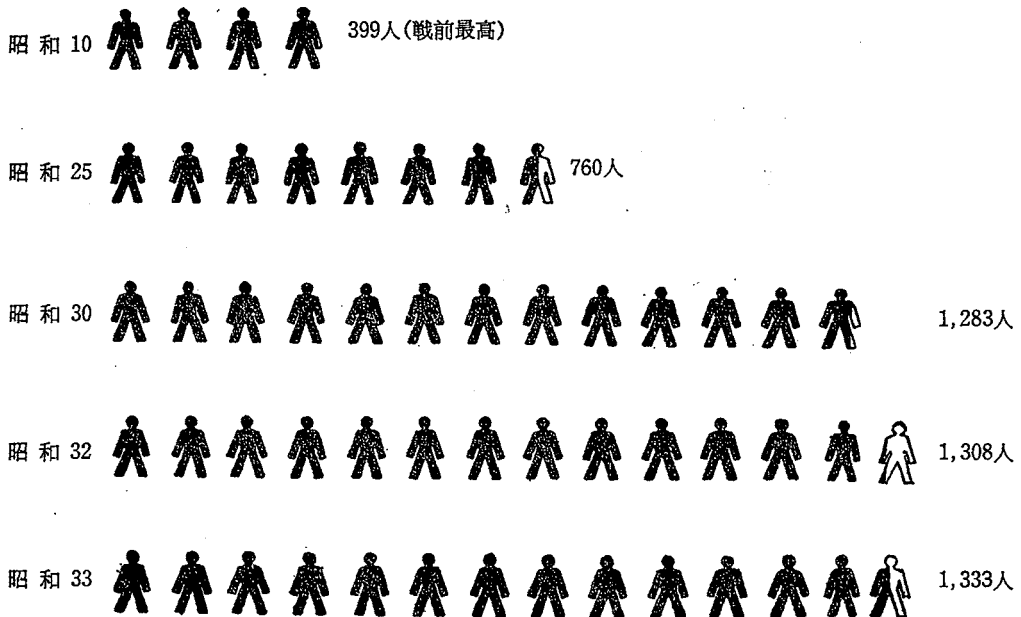
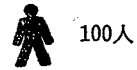


昭和33年度事業報告

(1958. 4. 1~1959. 3. 31)

1日平均利用者数

(本館および市内3館)



京 都 府 立 図 書 館

京都市左京区岡崎成勝寺町 9 電・吉田(7)0069・2450

1 概 況

昭和33年度の図書館利用者は前年より更に増加し、一般府民の図書館に対する期待の大きいことを物語っている。

長年待望の本館新築の件は、ようやく当局の認めるところとなり、昭和34年度の予算において、新館の建設調査費が計上された。引続き、35年度、36年度に工事の実施を行なうので、新館舎において、府民に最善のサービスのできる日もほど遠くない。

2 館内利用者 (本館および市内3分館)

本館および市内3分館における本年度内利用者総数は 371,464 人であった。

年度別に利用者数の動きを示すと右のとおりである。

年 度	利用者数 (人)	1 日平均 (人)
昭和10年(戦前最高)	129,782	399
昭和30年	359,599	1,283
昭和31年	330,915	1,271
昭和32年	359,323	1,308
昭和33年	371,464	1,333

3 館外貸出冊数 (地方6分館および貸出文庫)

地方6分館および貸出文庫において、各種団体に対し長期貸出(期間1ヶ月)を行つている。

なお、これらの長期貸出図書は1ヶ月の貸出期間中に各冊平均約3人の手を経て読まれるから、この分の本年度利用者総数は約 234,000人と推定される。

4 京都市内4館の利用者の内訳

	本 館	伏見分館	中京分館	上京分館	合 計
利用者数(人)	243,415	56,213	29,814	42,022	371,464
利用冊数(冊)	280,329	67,106	50,425	58,948	456,808
開館日数(日)	276	279	287	287	—
1日平均利用者数(人)	882	201	104	146	1,333
男 (%)	72	67	88	72	73
女 (%)	28	33	12	28	27
一般 (%)	18	11	66	16	21
学 生 (%)	82	89	34	84	79

学生の類別は岡崎本館における調査では

大学生 25% 高校生 41% 中学生 10%
小学生 9% 各種学校 15%

となつている。

5 利用図書の内容

岡崎本館の利用冊数は約28万冊で、一日平均1,015冊である。

これを図書の分類別にみると右のとおりである。

総 記	2.3(%)	自然科学	12.5(%)	語 学	6.7(%)
哲学・宗教	3.0	工 学	4.0	文 学	15.6
歴史・地理	9.3	産 業	1.6	児 童	17.9
社会科学	10.3	芸 術	3.2	新聞・雑誌	13.6

6 蔵書冊数

昭和33年度末における当館の蔵書冊数は26万冊をこえ、その配置別は右のとおりである。

本年度における増加図書数は7,278冊（購入＝6,536、受贈＝289、編入受入＝508、数量更正による増＝4）。

亡失、き損、不用による除籍図書数は1,228冊であつて差引年間6,050冊の純増である。

本館	221,138(冊)	峰山地方分館	4,598(冊)
伏見分館	6,596	宮津地方分館	4,561
中京分館	5,221	綾部地方分館	4,268
上京分館	5,632	園部地方分館	3,158
		北桑地方分館	3,184
		木津地方分館	3,122
		合計	262,706

7 開架図書の利用状況

岡崎本館では大閲覧室および学生室の一部に開架書架を設けて、新刊書、基本図書、雑誌をおき児童室に完全開架制を行つている。開架図書の利用は非常に多く、本館における成人の利用冊数では約8割を占めている。

大閲覧室 約10,000冊 学生室 約3,000冊 児童室 約3,000冊

8 読書相談奉仕

図書館の資料が十分利用されるように、専任の係(係員2名)をおき、利用者の質問、相談に応じ実効をあげてきた。

最近特に官公庁、会社工場、報導機関、文化団体、一般社会人が実務

口頭	11,107件	電話	2,412件	郵便	159件
計	13,678件	開室日数	276日	1日平均	496件

の必要から、資料の相談を求める傾向がつよくなつてきた。今後、京都府下関係各機関とも連絡を密にして一層サービスしたい。なお、この係は相談事務のほか、特許庁発行諸公報の整備、展示会の開催、貴重図書、特殊資料の保管利用、文献目録の編集、図書館見学者の案内にも当つている。

9 児童室

少年少女のために、よい読書環境をつくることはきわめて大切である。当館は児童室の充実に絶えず力を注いでいる。

本年度の利用児童は32,942名(男58%、女42%)で、図書館附近の小学校の児童が多い。

なほ、利用児童が図書委員となつて、児童室運営に協力している。

10 分館

(1) 伏見分館 (昭和25年2月開設)

伏見地区は岡崎本館から約8kmはなれ、分館の必要性がつよい。

この分館は、はじめ他の建物の一部を借りて出発し昭和29年快適な新館舎の落成をまつて移転再開した。敷地260坪、閲覧室70坪、座席120である。独立館舎をもつた初の本格的分館(コミュニティー・ランチ)として将来洛南地区文化センターの役割を果す日が期待される。

本年度の入館者数は、1日平均201名、1日最高465名であつた。

(2) 中京分館 (昭和24年6月開設)

この分館は当初、丸善京都支店地下室を借用してきたが、丸善支店のつごうにより一時閉館、昭和32年6月烏丸丸太町下ル京都府烏丸庁舎の3階(69坪)を利用して再開した。

中京分館は新刊の小説・随筆・新聞・雑誌を中心に完全開架制をとり、気軽な市民の読書室となることを目標としている。なお中京分館の所在地は京都商工会議所に近く、商工業者の利用を促進する目的をもつて商工業関係の図書・雑誌・パンフレットの類の収集につとめている。

本年度の入館者数は1日平均104名で一般人が学生よりもはるかに多く、全体の66%を占めている。特に商工業者、サラリーマンの利用の増加してきたことは喜ばしい。

(3) 上京分館（昭和26年4月開設）

京都市北部地区も岡崎本館から遠く、ここに上京分館が設置され活動してきた。

昭和31年4月、それまで借用していた紫郊会館から現在の北区等持院の故木島桜谷画伯元画室に移った。移転先は市電交叉点に近く、周囲は住宅地帯である。新館舎は約60坪で閲覧席80を有し、広い庭を前に控えて明るく快適である。資料も増し、名実共に旧に倍した充実ぶりである。

本年度入館者数1日平均146名、1日最高333名であった。

(4) 地方分館

昭和25年に峰山・宮津・綾部の3館、次いで昭和27年に園部・北桑・木津の3館が開設され現在6館である。これらの地方分館は、地域内の公民館、婦人会、青年会、読書会などの団体に対して30冊ないし50冊を期間1か月で団体貸出するものである。

なお文部省国庫補助を得て、「青年学級文庫」を購入し、地方6分館および本館貸出文庫に配して「青年学級」の読書活動を援助している。

館名	利用団体数	利用冊数(冊)
峰山地方分館	448	14,082
宮津地方分館	468	10,513
綾部地方分館	225	9,556
園部地方分館	272	12,640
北桑地方分館	112	11,486
木津地方分館	520	13,268
合計	2,045	71,545

11 貸出文庫

本館内にあり、主として京都市内および近郊の団体に対する貸出を行っている。

本年度における利用団体数 172、利用冊数 6,320冊。

12 研究集会

「整理事務の合理的能率化」についての研究集会が、昭和33年9月29、30日の2日間、本館において、当館と近畿公共図書館研究会の共催で開かれた。近畿地区公共図書館職員50余名が参加し、活潑に討議された。

13 経費

本年度諸経費は約19,078,000円で内訳は右の通りである。

なお本年度末における館員数は主事28名、主事補17名、庸人1名、臨時職員6名計52名である。

費目	金額	比較
人件費	約14,125,000円	74.0(%)
図書館資料費	3,100,000円	16.3(%)
図書費	2,287,000円	12.0(%)
（定期刊行物）	813,000円	4.3(%)
その他の経費	1,853,000円	9.7(%)

京都府立図書館所在地一覽

	所在地	電話
本館	京都市左京区岡崎成勝寺町 9	吉田(7)0069(庶務・読書相談・宿直) 2450(整理・閲覧・庶務)
伏見分館	京都市伏見区瀬戸物町 746	伏見(102) 2548
中京分館	京都市中京区烏丸通丸太町下ル(京都府烏丸庁舎3階)	上(8) 0916
上京分館	京都市北区等持院東町56	西陣(44) 9396
峰山地方分館	中郡峰山町字丹波 (公民館内)	峰山 232 (公民館)
宮津地方分館	宮津市鶴賀	宮津 350 (労働セツルメント)
綾部地方分館	綾部市並松 (綾部市立図書館内)	綾部 13 (綾部図書館)
園部地方分館	船井郡園部町字小桜町 (園部町立図書館内)	園部 250甲(園部図書館)
北桑地方分館	北桑田郡京北町字下中	弓削 40
木津地方分館	相楽郡木津町字内垣外	山城木津 101